# 平成２７年度　第２回千葉市青少年センター運営審議会議事録

１ 日　時

平成２８年２月２５日（木）午前１０時から１２時

２ 場　所

千葉市南部青少年センター２階会議室

３ 出席者

（委　員）

佐々木委員、齋藤委員、池田委員、石川委員、須藤（蔦）委員、
小川委員、須藤（俊）委員

（事務局）

三橋生涯学習振興課統括管理主事、木澤所長、日色所長補佐、川崎主査補

４ 議　題

（１）会長及び副会長の選任について
（２）平成２７年度事業報告について
（３）平成２８年度施設運営方針（案）について
（４）平成２８年度事業計画（案）について
（５）その他
　　①施設予約システムの導入について

５ 議事の概要

（１）会長及び副会長の選任について

会長に佐々木委員、副会長に齋藤委員が選任された。

（２）平成２７年度事業報告について

平成２７年１月末の施設の利用状況、主催事業の実施状況等について報告し、承認された。

（３）平成２８年度施設運営方針（案）について

施設運営方針（案）を説明し、承認された。

（４）平成２８年度事業計画（案）について

主催事業の計画（案）を説明し、承認された。

（５）その他

平成２８年４月から導入される施設予約システムについて説明した。

6　会議経過

（１）会長及び副会長の選任について

平成 27 年 12 月 1 日付け委員の改選に伴う会長及び副会長の選任を行った結果、会長に佐々木委員、副会長に齋藤委員が選任された。

（２）平成２７年度事業報告について

木澤所長より、資料 P1～7 及びパワーポイントの資料を使い、平成２８年１月末の施設の利用状況、主催事業の実施状況等について報告した。

（佐々木会長）　意見・質問はあるか？

（小川委員）　地域で活動しているが、中学生の参加がほとんどない。センターでは、中学生と小学生が交流できる事業があることはすばらしい。参加人数が少ないというのは、親御さんの理解が少ないせいだと思う。親が子どもを外で遊ばせることが少ないので、子どもが体験する機会がない。ひとりでできるゲームやスマホに夢中になり、団体行動が減っていることが残念。参加人数は減っても、子どもに魅力ある講座をやってほしい。

（佐々木会長）　青少年の参加・利用が少ないということに対して意見はあるか？

最近、青少年がかかわる悲惨な事件が多い。親だけの問題ではないと思う。

センターの青少年へのかかわりに関しての取組みについて意見はあるか？

（須藤（蔦）委員）　職場体験で受け入れていただいた生浜中学区の生浜小に自分の子どもが通っている。距離的には近いが、意外にセンターの存在は知られていない。居場所がないと思っている子どももいる。ラウンジで勉強できることがわかれば、もっと子どもたちも来るかも知れない。子どもだけでなく、親もセンターの存在を知らない人が多いので、職場体験をきっかけに、子どもから発信してもらえればと思った。

（佐々木会長）　センターの周知方法は？

（木澤所長）　年度当初に、市内全小中学校に利用案内等を配布している。主催事業については、近隣の小学校に直接ちらしを持って行っている。あまり遠いと、小学生はバスを使うことになるので難しい。おゆみ野地区は案外近く、主催事業に参加してくれる子どもも多い。中学生は部活動が忙しい。3 年生になると受験もあり、講座の参加は難しいと思われる。

ラウンジには１２人まで勉強ができる自習スペースがある。一般の方もいるが、試験が近づくと高校生や中学生も勉強しに来る。近隣の子にとっては利用しやすいが、家が遠い子にとっては遠くから来て座れないこともあるかも知れないし、小中学生の利用は 5 時までなので利用は難しい。ただ、センターとして、これからも認知度を高める努力はしていきたい。

（佐々木会長）　職員の人数が少ないのは知っているが、来ている子どもの相談にのったり、アドバイスができたりするような職員を配置することはできないか。

（木澤所長）　相談事業はやっていないが、ホールや照明に関して専門的な相談を受けられ

る職員もいる。嘱託職員の中にも楽器に関して相談にのれる職員もいる。そういう意味では専門的な職員がいるといい。小学生の相談を受けるには職員が足りない。正規職員の教員経験者が必要だとは思っている。

（佐々木会長）　子どもにとって、そこへ行くといろんなことを話したり聞いたりしてくれる人がいる場所があると、行きやすくなる。地域でやることかもしれないが、地域をまわって、声掛けしたりして、センターに導いてくれるような職員がいると子どもたちの居場所ができ、本当の意味での青少年の育成につながるのではないか。増員は難しいと思うが、センターに頑張ってもらいたい。

学校教育の話になるが、組体操を廃止した市があるというニュースがあった。危ないからというのが理由だが、最近では同じような理由で子どもが外に出づらくなっているように感じる。そうするとひきこもりになりやすい。子どもを外に連れ出すには、やはり人とのかかわりが大切で、ここに行くと安心だという居場所づくりが必要だと思う。

（佐々木会長）　施設管理について質問等はあるか？

（小川委員）　公民館は暖房が壊れても予算がなくて修理ができないとか、施設管理者が常時いないのですぐに対応できないことがあるが、センターでも同じことがあるのか？ここは施設管理者が常時いるので、すぐ修理してもらえるのはありがたい。

（佐々木会長）センターとして、予算があれば整備点検したいところはあるか？

（川崎主査補）　暖房・冷房機械のメンテナンスは免許が必要。業者に委託してそういう方に常駐してもらい、利用者に迷惑かけないようにしている。ただし、利用者から寒い、暑いと言われることに対しては、予算の関係で我慢していただくこともある。

（木澤所長）　予算がつけば、まずは入口の扉を自動ドアにしたい。重いので、ベビーカーの人や高齢者の方には負担が大きい。女子トイレのバリアフリー化もしたい。ホールの幕が劣化しているので交換もしたい。

（佐々木会長）　講座について、定員に対して受講者が少ないが、このことに対しての意見はあるか。

（石川委員）　小学４年生ぐらいになるとサッカー、ミニバスなどの部活に忙しい。子ども会にも出て来ない。それに、子どもが行きたいといっても、親がダメっていうので参加できない子どももいる。

社会福祉協議会で、高齢者の配食サービスのため調理室をよく利用している。いろいろそろっていてありがたい。その時間帯は小中学生は学校に行っている時間なので、子どもたちの姿は見かけない。青少年センターという名前だが、統計の数字からみても、このままだと、時代の流れとともに青少年より一般の利用者の方が多くなると思う。

「ゆめチャレンジ」は本当にすばらしい。子どもたちを連れて見せてあげたい。

講座にも子どもたちに参加してもらえるよう協力したい。

（佐々木会長）　ゆめチャレンジについて何かあるか？

（須藤（俊）委員）　主催講座やゆめチャレンジの募集方法について伺いたい。

（木澤所長）　講座は、市政だより、あでるは等で募集している。小中学生対象の講座は直接小学校にちらしを配布している。

ゆめチャレンジの出演団体はセンターの利用団体なので、対象となる団体に募集をかける。広報の方法としては、市政だより、あでるは、今年度初めて地域新聞に載せてもらった。もっとＰＲする方法はあるが、センターは駐車場が少ないので、近隣を重点的にＰＲしている。

（池田委員）　出演者としては、ゆめチャレンジは他の団体とも交流ができるのがいい。普段は一般の方に見て頂ける機会がないので、全然知らいない方に自分たちの演技を見てもらえるのは非常にありがたい。出演者と学生ボランティアだけでなく地域の方にも広がっていくようなものになっていけばいいと思う。

今年は小さいお子さんも多く見かけた。今後は例えばターゲットを乳幼児にして、地域の乳幼児や子育て中の方を巻き込んでできることがあればやってみるのもいいかと思う。小学生と乳幼児が交流できれば、子どもたちは学校では経験できないような経験もできる。長期的な目で見て、成長した乳幼児がいずれセンターの利用者になるかもしれない。それには、おむつ交換台などのハード面の問題や、保育士などの専門スタッフの問題もあるが、それらがクリアできるといい。

（３）平成２８年度施設運営方針（案）について

木澤所長より資料 P8 により説明した。

（４）平成２８年度事業計画（案）について

木澤所長より資料 P9～12 により説明した。

（佐々木会長）　今年度の講座で、近隣の公民館と同じ内容の講座が同時期にだぶったという話もあったが、来年度新規の絵手紙入門も、絵手紙はいろいろなところでやっている。情報収集が必要。

議題（２）から（４）まで承認いただける方は挙手を。

【全員一致で承認された。】

（５）その他

木澤所長より、平成 28 年度より導入する施設予約システムについて説明した。

議事録の確定について、会長に承認してもらうことを確認した。

7　照会先

南部青少年センター　TEL 043(264)8995